# 長崎原爆遺構を歩く

県原水協常任理事　内田　武志

⑦

## 今も立つ旧体育館の遺壁

### 渕国民学校跡

梁川町

渕中学校の前身、渕国民学校は一九四〇年開校の高等科の国民学校です。鉄筋コンクリート三階建ての本部校舎のほか、木造校舎や体育館など設備も整っていました。

しかし、一九四五年三月には「決戦教育措置要綱」（国民学校初等科を除きすべての学校の授業を原則停止、全学徒を決戦体制に動員する）が閣議決定され、高等科国民学校の教育は完全に停止し、教師も生徒も全員が三菱造船、三菱兵器などの軍需工場や駅員に動員され働いていました。

動員先で原爆にあい犠牲になった生徒は、動員学徒戦没者名簿に百三十三人とあります。

爆心地から一・二キロにあるこの学校は、原爆投下によって、本館校舎は鉄筋コンクリートを残し全焼、木造校舎は全倒壊後、全焼、体育館は外壁と骨組みだけになりました。被爆時、校舎の一部は三菱造船・電機の工場になっており、作業中の教職員二人、工員十五人が焼死しています。

現在、正門のすぐ右脇に、原爆の熱線で一部炭化した木材も見える旧体育館の遺壁が展示されています（写真）。破損した当時の門柱もあります。

近くにある稲佐小学校では、三十六学級千人を超える生徒がいましたが、戦後九月の登校者は約百二十人だったそうです。鉄筋校舎は倒壊を免れ、使用不能であった城山小・銭座小・渕小の生徒もここで授業を受けました。